

第1回

答え

1 しき $7 + 2 = 9$
($2 + 7 = 9$)

こたえ 9本

2 しき $2 + 6 = 8$

こたえ 8こ

3 しき $8 - 2 = 6$

こたえ 6ぴき

4 1 しき $9 - 5 = 4$

こたえ 4人

2 しき $5 + 9 = 14$

($9 + 5 = 14$)

こたえ 14人

3 しき $5 - 1 = 4$

こたえ 4人

考え方

たし算・ひき算の文章題の基本場面は、「合わせていくつ」の合併、「増えるといくつ」の増加、「残りはいくつ」の求残、「違いはいくつ」の求差、「ひくといくつ」の求部分という5種類あります。今回の問題はそれぞれ、1と4、2が増加、3が求部分、4、1が求差、4、3が求残です。

第2回でもこれらの基本的な場面の練習をしますので、ここでしっかりおさえておくといでしょう。

2 数学的には「 $2 + 6$ 」と「 $6 + 2$ 」は同じですが、増加の場面のように、時間的な経過をとまなう場合には、「 $2 + 6$ 」が場面に合った式と言えます。

第2回

答え

1 1 しき $12 + 7 = 19$
($7 + 12 = 19$)

こたえ 19ひき

2 しき $12 - 7 = 5$

こたえ 赤い金ぎよが5ひきおおい。

3 しき $12 - 3 = 9$

こたえ 9ひき

2 1 しき $3 + 15 = 18$

($15 + 3 = 18$)

こたえ 18こ

2 しき $15 - 3 = 12$

こたえ うでどけいが12こおおい。

考え方

今回は、1つの場面から2~3つの式を立てる問題を出題しています。

1, 2ともに、1は合併の問題、2は求差の問題です。

どちらも2は「どちらが」と「どれだけ多い」の両方を答える問題です。両方きちんと答えられていた場合にはほめてあげてください。また、どちらか一方しか答えていない場合には、「『どちらが』と『どれだけ多い』の両方を答えよう。」と声をかけてあげてください。

1 3 「赤い金魚を3匹取り出しました」という条件が追加されています。問題文の「赤い金ぎよが12ひき」に注目すればよいことを教えてあげるといでしょう。

第3回

答え

1 1 (○) もって いる。
() もって いない。

2 () かけて いる。
(○) かけて いない。

2 イーマルがえらんだのは左から3ばん目のカードです。

考え方

論理問題を取り上げています。推理クイズとして、楽しみながら取り組めるといでしょう。

1 1 「花束を持っている人が4人」とありますが、絵を見ると花束を持っている人は3人しかいません。そのため、?の人は花束を持っていることがわかります。

2 「花束を持っていて、眼鏡をかけている人は1人」で、中央に花束を持っていて、眼鏡をかけている人がすでに1人いるので、?の人は眼鏡をかけていないとわかります。

2 イーマルが選んだカードは「○」か「×」か「◎」か「△」のいずれかが書かれたカードです。

また、「1つ左に『×』が書かれたカードがある」のは、左から3番目の「◎」か、左から6番目の「□」です。

このことから、イーマルが選んだカードは左から3番目の「◎」のカードだとわかります。

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



Z会の本



かっこいい小学生になろう